

GO

FLY



新北島中学校 学年通信 No16

2020.05.19.発行



5月初旬のある日、すっかり初夏の様相になりました。少し動けば汗ばむようなこんな日を、気象用語では「夏日」というようです。そんな一日が暮れて、太陽が静かに大阪湾に沈み始めたころ、大和川の堤防に出てみると、向こう岸からトランペットの音が聞こえてきました。音だけでどこにだれがいるのかすらわかりません。おとなでしょうか、学生でしょうか、たぶんコロナで練習場所を失った人が吹いているのでしょう。何曲か吹いたあと聞こえてきたのは、ある在阪球団の応援歌でした。先の見えないこの世の中です。「よくぞ吹いてくれた」という気持ちでうれしくなりました。コロナに負けるなという応援歌にちがいないと受け取りました。

換気のために開け放された窓から吹いてくる風が、暖かいのは気のせいではありません。カレンダーはもう5月、桜前線が北海道に到達したと伝えるニュースを見ながら、そういえば、満開のさくらを見上げる気分にはさえなれなかったこの春のことを思います。通学路に子どもたちの姿はありません。小学校は入学式すらできていないようです。高校野球もプロ野球も、スタジアムの歓声が遠いまま、4月は過ぎ去りました。

政府の専門家会議が先日「新規感染者は減少傾向にある」との見解を示していました。少しだけおだやかに聞こえた話しぶりに、明るいきざしを見いだしていいのか、それとも、この人がカメラ目線に慣れただけなのか、よけいな感想をもちつつ、会見のことばに聞き入りました。



〈ふるさとは 遠きにありて・・・〉で知られる室生犀星に「五月」という4行詩があります。

五月

悲しめるもののために

みどりかがやく

くるしみ生きむとするもののために

ああ みどりは輝く



悲しみに沈む人にはひらがなの優しい「かがやき」を。生きよう、と苦境で歯を食いしばる人には漢字でまばゆい「輝き」を。詩人のことばをかみしめながら、今しばらくのガマンを・・・